

平成 28 年度事業計画

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日

公益財団法人 日 本 棋 院

東京都千代田区五番町 7 番地 2

目 次

はじめに

I 圧碁普及事業（公益目的事業）

- 1 棋戦事業
- 2 棋士育成事業
- 3 圧碁対局環境の提供
- 4 圧碁普及と圧碁指導
 - 4-1 青少年等への圧碁普及
 - 4-2 国内における圧碁普及および圧碁愛好者への指導
 - 4-3 海外への圧碁普及
- 5 段級位認定
- 6 圧碁大会の開催
 - 6-1 青少年対象の圧碁大会の開催
 - 6-2 圧碁選手権・圧碁大会等の開催
 - 6-3 アマチュア国際大会への参加等
- 7 表彰
- 8 圧碁関係情報提供
- 9 圧碁殿堂資料館
- 10 各拠点での活動
 - 10-1 有楽町圧碁センター
 - 10-2 関西総本部
 - 10-3 中部総本部

II 収益事業

- 1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）
- 2 不動産賃貸事業（収益事業2）
- 3 販売品、書籍事業（収益事業3）

III 管理部門

- 1 受取寄付金
- 2 コンプライアンス
- 3 「圧碁大使」の拡充
- 4 「100周年ビジョン」に向けて

はじめに

日本棋院は、日本の伝統文化である棋道の継承発展と普及振興を図るために、棋戦の開催や棋士の育成及び囲碁愛好者を対象とする囲碁指導、棋力認定、囲碁情報提供などの事業を国内外で実施する。

平成 28 年度における事業計画及び予算は次の通りとする。

I 囲碁普及事業（公益目的事業）

1 棋戦事業

棋戦は、囲碁の歴史を創造する場であり、棋道の研鑽と発達に重要な役割を果たしている。棋戦の模様は、新聞での速報や囲碁欄での観戦記の掲載をはじめ、テレビ・インターネットで中継され、全国の囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化の振興に寄与している。また、地方で開催される挑戦手合や棋戦では、棋士と地元の囲碁愛好者や子どもたちの交流の場として、対局を直に見る機会を設けるほか、解説会や指導碁など、ファンイベントを同時に開催する。海外棋戦やインターネット棋戦などを含めた平成 28 年度予定の棋戦概要、共催団体等は以下の通りである。

(1) 棋聖戦（第 41 期 読売新聞社）

予選：アマチュア 4 名を含む全棋士が参加する、ファーストトーナメント予選を実施する。

リーグ戦：ファーストトーナメントの勝ち上がりが C リーグ（変則リーグ）へ。以降順に、B、A、S 各リーグを（それぞれ 32 名、8 名の 2 リーグ、8 名の 1 リーグ、6 名）を行い、各リーグの優勝者がパラマス方式による挑戦者決定トーナメントを行う。

挑戦手合：七番勝負（4 勝先取）を実施し棋聖位を決定。敗者は次期 S リーグ戦から出場。

(2) 名人戦（第 41 期 朝日新聞社）

予選：全棋士が参加し、4 段階の予選を行い、リーグ入り（3 枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：9 人による総当たり戦を実施し第 1 位者が挑戦者になる。

なお、リーグ陥落者 3 名は次期最終予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4 勝先取）を実施し名人位を決定。敗者は次期リーグ戦から出場。

(3) 本因坊戦（第 71 期 毎日新聞社）

予選：全棋士が参加し、4 段階の予選を行い、リーグ入り（4 枠）をかけたトーナメント戦を実施。

リーグ戦：8 人による総当たり戦を実施し第 1 位者が挑戦者になる。

なお、リーグ陥落者 4 名は次期最終予選からの出場。

挑戦手合：七番勝負（4勝先取）を実施し本因坊を決定。敗者は次期リーグ戦から出場。

(4) 王座戦（第64期 日本経済新聞社）

予選：全棋士が参加し、本戦出場の枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士が加わり16名が王座への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し王座位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(5) 天元戦（第42期 新聞三社連合）

予選：全棋士が参加し、本戦出場28名+ α をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士が加わり天元への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し天元位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(6) 暮聖戦（第41期 新聞囲碁連盟）

予選：全棋士が参加し、本戦出場24枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士が加わり暮聖への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し暮聖位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(7) 十段戦（第54期 産経新聞社）

予選：全棋士が参加し、本戦出場16枠をかけたトーナメント戦を実施。

本戦：シード棋士を含む20名で十段への挑戦権をかけたトーナメント戦を実施。

挑戦手合：五番勝負（3勝先取）を実施し十段位を決定。敗者は次期本戦から出場。

(8) 阿含・桐山杯全日本早碁オープン戦（第23期 毎日新聞社・京都新聞社・阿含宗）

アマチュア20名を含む全棋士で予選を行う。前期優勝者と予選通過者、タイトル保持者の計16名で本戦トーナメントを実施し、優勝者を決定する（決勝戦は京都開催）。

(9) 阿含・桐山杯日中決戦（第18期 每日新聞社・京都新聞社・阿含宗）

日本と中国の桐山杯優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定。第18期は、日本で開催の予定。

(10) 新人王戦（第41期 しんぶん赤旗）

25歳以下の初段から六段までの棋士で予選を行い、32名によるトーナメント戦を実施する。決勝三番勝負出場者2名を選出し優勝者を決定。

(11) NHK杯テレビ囲碁トーナメント戦（第64回 NHK）

選抜棋士50人によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定する。

(12) テレビ囲碁アジア選手権 (第28回 NHK・KBS・CCTV)

日本、韓国、中国3カ国が持ち回りで開催。前年度優勝者と(NHK杯、KBS杯、CCTV杯)優勝、準優勝者、各3名の計7名によるトーナメント戦を実施し、優勝者を決定する。第28回は日本で開催の予定。

(13) 龍星戦 (第25期 囲碁将棋チャンネル)

予選:全棋士が参加し、本戦出場96名をかけたトーナメント戦を実施。

本戦:96名を8組に分け勝ち抜き戦の後16名による決勝トーナメント戦を実施し優勝者を決定。CS放送(囲碁・将棋チャンネル)で放映。

(14) 日中龍星戦 (第3回 囲碁将棋チャンネル)

日本と中国の龍星戦優勝者が両国交互で日中決戦を実施し、優勝者を決定。第3回は日本で開催の予定。

(15) マスターズカップ (第6回 フマキラー)

50歳以上の現役七大タイトルホルダー及び経験者と予選勝ち抜き者4名計16名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。

(16) グロービス杯 世界囲碁U-20 (第3回 グロービス)

日本6名、韓国3名、中国3名、台湾1名、欧州1名、北米1名、タイ1名の20歳未満の16名によるトーナメント戦がグロービス経営大学院で実施され優勝者を決定。

(17) 女流本因坊戦 (第35期 共同通信社)

予選の勝ち上がりと前期ベスト4、女流タイトルホルダー24名によるトーナメント戦。

挑戦手合:五番勝負(3勝先取)を実施し女流本因坊位を決定。

(18) 女流名人戦 (第29期 産経新聞社)

予選の勝ち上がり3名と前期残留を含めた7名がリーグ戦を行い1位が挑戦者となる。

挑戦手合:三番勝負(2勝先取)を実施し女流名人位を決定。

(19) 女流棋聖戦 (第20期 NTTドコモ)

予選を勝ち上がった16名によるトーナメント戦。

挑戦手合:三番勝負(2勝先取)を実施し女流棋聖位を決定。

本戦、挑戦手合はCS放送(囲碁・将棋チャンネル)で放映。

(20) 会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦 (第3回 温知会)

予選の勝ち上がりと、女流タイトルホルダー、前期優勝者をあわせた8名によるトーナメント戦が会津若松市で開催し優勝者を決定。

決勝戦のみ2日制とし、準決勝までは1日1局でトーナメント戦を実施。

(21) 扇興杯女流囲碁最強戦 (第1回 センコー)

予選を勝ち上がった16名による決勝トーナメント戦を行う。準決勝、決勝戦は滋賀県近江市で開催し優勝者を決定。

(22) 王冠戦（第57期 中日新聞社）

中部総本部所属の棋士で予選を行い、12名によるトーナメント戦。優勝者が挑戦手合一番勝負に出場。

(23) 広島アルミ杯・若鯉戦（第11回 広島アルミニウム工業）

30歳以下、六段以下の棋士で予選を行い、16名（前期優勝者、準優勝者はシード）によるトーナメント戦。本戦は広島で開催され優勝者を決定。

(24) おかげ杯（第7回 濱田総業）

30歳以下の棋士（新入段含む）で予選を行う。16名（前期優勝者シード含む）によるトーナメント戦。本戦は伊勢市で開催され優勝者が決定。

(25) おかげ杯国際囲碁対抗戦（第3回 濱田総業）

日本・中国・韓国・台湾各国の推薦棋士（男子3名、女性2名）による対抗戦を行い、優勝チームを決定する。伊勢市で開催し優勝者を決定。

(26) 棋戦優勝者選手権戦

国内各棋戦（女流棋戦含む）における、棋戦優勝者とファン投票選抜棋士1名によるトーナメント戦を実施し優勝者を決定。

棋戦優勝者選手権における優勝者には、「内閣総理大臣杯・賞」「文部科学大臣楯・賞」が授与される。

(27) ゆうちょ杯（第3回 ゆうちょ銀行）

七段以下・20歳以下の棋士と推薦の院生が予選を行う。本戦は16名によるトーナメント戦。

(28) 海外棋戦

① LG杯、三星火災杯、農心杯（以上、韓国主催）、春蘭杯（隔年）、百靈杯（隔年）、応氏杯（4年に一度）、夢百合杯、黃竜士双登杯世界女子囲碁団体戦、穹窿山兵聖杯世界女子囲碁選手権、農商銀行杯世界女子団体戦、丙級リーグ（以上、中国主催）、国際新鋭囲碁対抗戦（日中韓台で4年に1回の持ち回りで平成28年度は日本で開催）等の海外棋戦に参戦する。

② 海外棋戦の参戦にあたっては、平成25年度に発足した「GO・碁・ジャパン」ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金による更なるチーム強化等を図り、日本の棋士の海外棋戦における成績向上を目指すこととする。

本チームは、監督、コーチ並びに賞金ランキング上位者、海外棋戦における成績優秀者、新人王等、及び女流棋士ランキング上位者の中から選出される代表選手により編成する。

2 棋士育成事業

棋士をめざす青少年の養成機関として院生研修を実施するとともに、海外棋戦での活躍に向けて若手棋士の育成を行う。

(1) 院生研修

毎土・日曜日（月8日間）院生研修を実施する。師範の指導のもとクラス別に対戦し、毎月の成績によりクラスの昇降級を行う。この中からと外来受験者を合わせて行われる棋士採用試験を経て棋士となる。また、院生研修日に、タイトル棋士、リーグ入り棋士による解説と検討指導を実施するほか、毎週火、水、金の午後8時より9時30分に、院生とネット対局「幽玄の間」で棋士が対局指導を行う。

(2) 若手棋士育成

「GO・碁・ジャパン」メンバーの若手棋士には、海外棋戦（三星火災杯、LG杯、農心杯等）へ挑戦させ、海外対局感覚を身につけるとともに、棋力向上の取組を行う。

また、ナショナルチームの所属棋士とU20棋士による棋力強化対局をネット対局「幽玄の間」を利用して実施する。

(3) 語学・スキルアップ・プラン

加速する囲碁の国際化に対応する為、英語ができ、かつコミュニケーション能力の高い棋士の育成をするため、本プランを実施する。希望する棋士の中から2名を選考し、英会話スクールを受講、また検定試験を受験し、語学力の向上をめざす。

3 囲碁対局環境の提供

日本棋院の各施設において一般対局場を開設する他、ネット対局「幽玄の間」を開設し、誰でも囲碁が楽しめる環境を提供して囲碁愛好者の棋力増進に寄与する。

(1) 一般対局室の開設

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各施設において、対局場を開設し、「級位者・有段者の集い」などの対局組合せのほか入門者向けコーナーを設けるなど誰でも囲碁を楽しめる環境を提供する。

(2) ネット対局サイト「幽玄の間」

あらゆる世代の囲碁愛好者が、パソコン及びスマートフォン・タブレット上で手軽に対局を楽しめる環境を提供する。日本のみならず、韓国・中国・台湾などの東アジアさらにヨーロッパ、北米などの世界の囲碁ファンとコミュニケーションの場が広がりをみせている。平成28年度は、好評いただいている入門・初心者向け新サービス「囲碁アイランド」の続編の提供を予定しており、新たな囲碁ファンの取り込みを図っていく。さらに昨年実施した「都道府県対抗戦」も引き続き実施を予定しており、会員の満足度向上に努める。また、26年度から実施している学生、家族向けの新料金体系をアピールし、囲碁普及における

中核的な事業として強化していく。

(3) 貸室・囲碁用品の提供

囲碁愛好者の大会やセミナー等の開催に合わせ、ホールや和室等の貸室を提供するほか、対局時計や解説用大碁盤等の貸し出しを行い、職域大会や地域囲碁大会等の利用に応じる。

(4) 海外囲碁センターの支援

欧州、北米、南米それぞれに保有する囲碁センターについてヨーロッパ囲碁文化センター（オランダ・アムステルダム）、シアトル碁センター（アメリカ・シアトル）南米本部（ブラジル・サンパウロ）の3ヵ所は、引き続き現地の囲碁普及団体に囲碁センターの運営を委ね、現地の囲碁普及活動を支援する。

また「岩本北米囲碁基金」（Iwamoto North America Foundation for Go）の創設により、米国囲碁協会（AGA）と協力のうえ、北米における囲碁普及活動を支援し、特に今年度から北米と日本棋院間でアウトバウンド、インバウンドの事業を行う。

4 囲碁普及と囲碁指導

囲碁は、集中力・認識力・想像力・コミュニケーション力の向上に優れ、自由な発想と創造性を育むとともに、脳の活性化や生きがいの形成、人と人とのふれあいなどにも大いに役立つことが福祉、医学、教育界等で認知されてきている。

また、「囲碁と脳に関する研究」（東北大学）でも「囲碁は、子供の自己抑制力を伸ばす」ことが明らかとなっている。

囲碁の素晴らしいを幅広い世代へ伝えるため、今後も更に普及活動を推進する。また、すべての囲碁愛好者の棋力向上と囲碁文化を普及するため、棋士による指導のほか、普及指導員、地元ボランティアによる囲碁指導を全国で展開する。

4-1 青少年等への囲碁普及

囲碁が青少年の健全育成に寄与し、学校教育に役立つことへの理解を求める活動を強化するために、地方自治体・教育委員会・学校と協力体制をとり、地域に密着した囲碁普及事業を広く展開する。

(1) 囲碁入門・初級教室の実施

① 全国的小・中学校で入門囲碁体験教室を開催

棋士等を派遣し指導を行う。また、現地での継続的な開催を支援する。

② ジュニア教室の開催

東京本院、関西総本部、中部総本部の各施設にて定期的に棋力に応じた教室を開催する。

③ 入門・初心者会員制度の創設並びにインターネット入門・初心者コンテンツ提供。これまで、囲碁普及の入門・初心者向けの会員制度がなかったことから、昨年10月に「入門・初心者会員」を創設した。また、それに合わせてイン

ターネットでも、入門・初心者向けコンテンツ「囲碁アイランド」を昨年6月に創設し更なる普及の拡大を図る。

(2) 学校教育への囲碁導入

- ① 「総合学習」伝統文化体験学習の枠を使った正課授業及び部活動等への囲碁導入の支援を行う。
- ② 学校囲碁指導員講習会の実施による拡充及び指導員養成を行う。
- ③ 文部科学省「放課後子どもプラン」の中での囲碁導入推進を行う。
- ④ 高等学校に於ける日本の伝統・文化としての囲碁の授業の導入推進を行う。
- ⑤ 「がっこう囲碁普及基金」を有効活用し、学校教育への導入の際の棋士または指導員の派遣、用具支援を行う。

(3) 学校囲碁指導員講習会の開催

学校教育の中に囲碁普及を拡充するため、また、指導者を養成するため、公益財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）を受け、学校囲碁指導員講習会を全国で展開する。（平成28年度は、昨年度と同じ17会場での開催を予定）

(4) 大学での囲碁授業の展開

- ① 平成27年度に、東京学芸大学、熊本学園大学、九州大学など、新たに3大学で開講され、23大学等に拡大した大学囲碁授業は、平成28年度においてもさらに、複数大学が実施予定または検討中であり、開講促進の活動を実施する。
- ② 大学での囲碁授業に講師として棋士を派遣する。また、囲碁授業の円滑な実施に向けた棋士への研修を実施する等、支援を実施する。

(5) 「がっこう囲碁普及基金」の拡大

幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした基金を平成27年4月1日に募金の受付を開始した。この維持と拡大を行う。

(6) 法人賛助会員の維持・拡大

法人賛助会員は、各企業の社会貢献活動として、日本棋院が行う普及活動にご支援いただくもので、子供たちへの囲碁普及、若者の囲碁の才能の発掘と育成、囲碁による高齢者の健康増進等の囲碁普及に有効に活用しているおり、会員の維持・拡大を行う。

4-2 国内における囲碁普及および囲碁愛好者への指導

囲碁のすばらしさを伝え、囲碁を知らない方への入門指導、囲碁愛好者の棋力向上に向けた指導を行い、囲碁を日本における重要な伝統文化の一つとして継承する。

(1) 囲碁学校

日本棋院の各施設において、入門者から高段者まで様々な棋力の方を対象とした囲碁学校を常時開設。棋士による講座・解説を実施する。

(2) 指導碁

日本棋院の各施設において、指導碁を担当する棋士をほぼ毎日常駐させ、希

望すれば入門者から高段者まで直接指導が受けられる体制をつくり、囲碁愛好者の棋力向上に努める。

(3) ネット指導碁

日本棋院が運営するネット対局サイト「幽玄の間」上で棋士による指導碁を実施している。ネットの特性で遠隔地にお住まいの囲碁ファンも気軽に指導碁を受けられたり、指導碁の講評を繰り返し見ることが出来る機能により好評を博している。

(4) 棋士派遣

法人・個人を問わず全国各地からの要請により、棋士の派遣を行う。主な派遣活動として、大会審判、指導碁、講演・講座、入門教室等を行う。

平成28年度の棋士派遣は、国内で約1,100件を見込んでいる。

(5) 囲碁未来教室の開催

雑誌「囲碁未来」を教材として使用し、要望のあった各地の支部等で囲碁未来教室を開催。指導員及び棋士を派遣し支援する。

(6) 囲碁愛好者との連携強化

より多くの囲碁愛好者との連携を深めるため、各県本部・県支部連合会の協力を得て、昨年に引き続き3ヵ所の県にてイベントを開催する。棋士を派遣し、囲碁愛好者と棋士の交流を深める。イベントを通して囲碁人口の拡大、個人・支部会員等の維持拡大を図る。

また、入門者・初心者を対象とした会員拡大キャンペーンを実施し、更なる個人・支部会員等の維持拡大を図る。

① 個人、支部会員の維持・拡大

② 法人会員の維持・拡大

③ 支部の活性化

囲碁普及と各地の囲碁愛好者の棋力向上を目指し、支部代表者懇談会を全国8箇所で開催する。現地の要望、提案等意見交換を行うとともに、地域の「絆を作りだす力」としてのコミュニティづくりとしても支部活動を強化していく。

特に、地方の団塊の世代のシニア層を対象とした入門教室を実施し、会員の新規加入、後継者育成等を推進し、活性化を図る。

(7) 高齢者の脳の活性化と健康を増進させる働きかけ

わかりやすい内容の入門キットを製作するとともに、高齢者を対象とした販路を開拓し、高齢者の脳の活性化と健康増進を図る。

4-3 海外への囲碁普及

文化交流を目的に囲碁を海外へ紹介するとともに、マインドスポーツの一つとして、他国の囲碁団体と協調し、囲碁人口の拡大を図り、現地囲碁愛好者の棋力向上に寄与する。

(1) 國際囲碁連盟（IGF）との連携

日本棋院は、國際囲碁連盟（IGF）と連携し、世界各国への囲碁の普及と世界の囲碁界の組織化に努める。

(2) 三カ国棋院首脳会議

世界の囲碁界で活躍する日本棋院、中国棋院、韓国棋院の三カ国が出席して本会議を行う。将来にわたり世界中に囲碁を大きく発展させ、広く振興するため、三カ国それぞれの棋院が協力・連携・努力を行う。

(3) 棋士の海外派遣

各官公序・民間団体等の支援を得て、棋士を海外に派遣し、囲碁文化の紹介と入門指導や現地高段者への講座を行うなど、囲碁文化普及と棋力向上に努める。

- ・カナダ、アメリカ棋士派遣
- ・ロシア棋士派遣
- ・ブラジル棋士派遣
- ・シアトル棋士派遣
- ・ドイツ棋士派遣
- ・U.S.碁コングレス（ボストン）
- ・欧州碁コングレス（サンクトペテルブルク）

(4) ASEAN囲碁研修

昨年度から開催のASEAN囲碁研修は、諸国から参加者を招いて日本との囲碁交流を深めるため日本で開催したが、今年度はASEAN諸国に棋士を派遣し、現地にて囲碁指導を行い、アジアの中で人と人とをつなげ、ネットワークを深め、共感・共生の意識を育むため、囲碁研修を行う。

(5) ジャパン碁コングレス

今年度よりリオデジャネイロ五輪終了時から、東京五輪終了時まで開催されるオリンピック文化プログラムの一つとして、囲碁の「文化プログラム」を実施する。

長年親しまれているヨーロッパ碁コングレスやU.S.碁コングレスのように、棋力を問わず、世界各国から囲碁愛好者、その家族、囲碁を知らない入門者等だれでも参加出来る囲碁イベントを複数開催する。

その囲碁「文化プログラム」第一弾として「サマー碁キャンプ」を開催する。

海外の愛棋家に、囲碁の伝統を育んできた日本の囲碁と文化を学ぶ機会を提供する。

(6) 『スポーツ・文化・ワールド・フォーラム』（=WFSC）に協力

文部科学省が2016年10月19日京都、10月20日～22日東京で開催を予定している『スポーツ・文化・ワールド・フォーラム』=WFSC開催に協力するため、日本棋院は囲碁のサイドイベントを実施する。イベント内容は現在未定。

5 段級位認定

段級位の認定は棋力の到達度の証明となるもので、対局を行う際にはハンディキップを付与することで、棋力の差がある者同士の対局でも公平に勝敗を競うことが可能となる。

(1) 段級位認定大会

今年度も全国各地で認定大会を開催する。

(2) 紙上認定

日本棋院発行の碁ワールド、囲碁未来、週刊碁、ホームページ、そのほか一般紙に認定問題を掲載し、段級位認定を行う。1回の認定で段級位を申請できる認定問題の配布を2回実施する。

(3) インターネット認定

ネット対局「幽玄の間」を活用した、レーティングポイントによる段級位認定を行う。

6 囲碁大会の開催

各都道府県において、現地の囲碁愛好者が運営する日本棋院県本部あるいは県支部連合会と連携し、日本棋院が認可した644の支部の協力を得て、囲碁大会の主催、後援等を行う。

6-1 青少年対象の囲碁大会の開催

高校生以下を対象とした4つの全国大会及び地区大会を開催し、また、各県や団体が開催する子ども大会への協力・後援を積極的に行う。

(1) 第37回 文部科学大臣杯 少年少女囲碁大会

各県大会を勝ちあがった選手による全国大会を8月2日～3日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。地方大会においては多くの会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。全国大会は小・中学生それぞれ約100人が出場予定。<公益財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）>

(2) 第13回 文部科学大臣杯 小・中学校囲碁団体戦

全国大会は7月31日～8月1日の2日間、東京の日本棋院で開催予定。小・中学生それぞれ1チーム3名編成の学校単位のチーム団体戦で128校が出場予定。

<公益財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）>

(3) 第40回 文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会

昨年度に引き続き地方大会においては、多くの会場での開催を呼びかけ、参加校、参加人数増を目指す。全国大会は7月25日～27日の3日間、東京の日本棋院で開催予定。約450人が出場の予定。

<公益財団法人JKAの青少年健全育成補助（予定）>

(4) 第6回くらしき吉備真備杯こども棋聖戦

平成 23 年から、倉敷市と読売新聞社との共催でスタートした大会。都道府県大会において選抜された小学生低学年の部 48 名、小学生高学年の部 48 名の計 96 名がこども棋聖の称号をかけて競う。開催は、12 月 10 日～11 日、倉敷市にて開催の予定。

- (5) その他の大会を継続開催
 - ・ジュニア囲碁大会
 - ・ジュニア囲碁パーク
 - ・千代田区こども囲碁大会
 - ・ロッテこども囲碁大会

6-2 囲碁選手権・囲碁大会等の開催

多数の協賛会社のご協力を得て、各種の全国大会や地方大会、地域独自の大会を開催予定。今年度の主な大会は以下の通り。

- (1) 第 9 回宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦
級位戦から名人戦までの 9 クラスでそれぞれチャンピオンを決める大会。全国 11 ブロック、12 の地方大会を開催し、12 月 4 日に京都で全国大会を開いてチャンピオンを競う。
平成 28 年度は、のべ 9000 名参加予定。
- (2) 第 62 回全日本アマチュア本因坊決定戦
各県大会を勝ち上がった選手とシード選手計 64 名が 8 月 20 日～21 日、日本棋院で行われる全国大会でアマチュア本因坊の称号をかけて競う。
- (3) 第 59 回全日本女流アマ選手権戦
各県大会を勝ち上がった選手 96 名が 3 月 11 日～12 日、日本棋院で行われる全国大会で日本一を競う。
- (4) 第 54 回女流アマ都市対抗戦
アマチュア碁界で最大規模の都市対抗戦。
1 チーム 5 名の団体戦。11 月 15 日～16 日の 2 日間、福岡県北九州市で開催予定。全国からの参加選手は約 700 人～800 人を予定。
- (5) 第 16 回内閣総理大臣杯全国アマチュア団体囲碁選手権
産経新聞社と共に。内閣総理大臣杯・全国アマチュア団体囲碁選手権は、1 チーム 3 名編成であれば誰でも参加できる団体戦。東京と大阪の 2 会場で開催され、2 会場の優勝チームは東京で決勝戦を 11 月 20 日に行い、勝利チームに内閣総理大臣杯が授与される。
- (6) 都道府県民まつりの開催
 - ① 囲碁・将棋チャンネル杯世界アマチュア囲碁選手権日本代表決定戦・県予選。
「世界アマチュア囲碁選手権戦」の国内予選として、平成 28 年度も支部等活動に協力し推進する。

- ② 日本棋院支部対抗戦 都道府県大会
都道府県の大会・行事の中で開催し、地域間での親睦・交流を深めることを目的に、また、支部の活性化となるよう推進する。
- (7) 全国規模イベントへの参加
「ねんりんピック健康福祉祭」は、10月16、17日に長崎県西海市で開催される。生涯学習、文化向上、健康福祉への一助として参加、協力を行う。
- (8) その他大会等
1月5日を「囲碁の日」とし、東京本院、関西総本部、中部総本部で打ち初め式を開催する。棋士による記念対局や指導碁等、囲碁ファンの交流の場となるように、また棋力向上につながるような催しを実施する。

6-3 アマチュア国際大会への参加等

- (1) アマチュア国際大会への参加
- ・第37回世界アマチュア囲碁選手権戦（中国）
 - ・第11回韓国首相杯国際アマチュア囲碁選手権戦
 - ・ワールドユース囲碁選手権戦
 - ・ハンファ生命杯少年少女囲碁選手権戦（韓国開催）
 - ・世界大学生囲碁選手権戦
 - ・第2回マレーシア・フルダカップアジア囲碁選手権戦
- (2) 国際交流の支援及び大会の後援・協力
- ・日露青年囲碁交流
 - ・国際アマチュア・ペア碁選手権大会
 - ・サマー碁キャンプ
 - ・ASEAN囲碁研修
 - ・日中交流（特命棋士）
 - ・日台交流
 - ・世界学生囲碁王座戦
 - ・ミャンマー囲碁プロジェクト

7 表彰

棋道の研鑽、囲碁普及と発展に顕著な貢献を頂いた方々及び日本囲碁界の将来を担う棋士を対象にその栄誉をたたえ表彰する。

- (1) 大倉喜七郎賞
日本棋院の生みの親、故大倉喜七郎氏の遺徳をたたえ昭和39年に創設。棋士、アマチュア、国内外問わず、囲碁普及に特に功労のあった方を表彰する。
- (2) 秀哉賞
二十一世本因坊秀哉名人の業績を永く記念するため昭和38年に創設。囲碁界において顕著な成績を収め、将来が嘱望される棋士を表彰する。

(3) 囲碁殿堂表彰

日本棋院創立 80 周年記念事業として、囲碁殿堂資料館の発足とともに創設し、囲碁史上に多大な業績をあげ、現在の囲碁の隆盛に貢献した方を顕彰（殿堂入り）する。

(4) その他

棋道賞、普及功労賞、普及活動賞、優秀支部表彰、特別功労賞、土川賞等の表彰に加え、平成 25 年度より創設された、「棋戦優勝者選手権戦」の優勝者に対する内閣総理大臣杯等の授与式を行う。

8 囲碁関係情報提供

日本の伝統文化である囲碁を次代に継承していくことは、日本棋院にとって大切な使命との認識のもと、出版物、あるいはインターネット上に囲碁文化・技術等に関する情報を積極的に発信する。

(1) 雑誌、新聞の発行

① 月刊「碁ワールド」

中級者から有段者向け月刊誌として、棋戦解説を中心にグラビア、講座、読み物、海外ニュース、トライアル問題などバラエティーに富んだ内容を掲載する予定。

② 月刊「囲碁未来」

15 級から初段を目指す方を対象として、棋力向上のための布石、定石の問題、講座、囲碁情報等を掲載する。また囲碁未来教室のテキストとしても活用する。

③ 「週刊碁」

囲碁界のニュース速報を主眼にタイトル戦特集、棋士の動向、海外情報、アマ大会や一般ファンを対象にした催し案内、上達講座など、幅広い層を意識した多彩な構成とし、国内外の囲碁愛好者へ情報を発信する。

④ 「囲碁年鑑」

月刊碁ワールドの臨時増刊号として 5 月に発行予定。国内棋戦、国際棋戦、アマ大会、囲碁界の記録集、棋士名鑑など、平成 27 年一年間の囲碁情報をまとめ る。

(2) 電子媒体による情報提供

① 日本棋院ホームページ

平成 27 年 3 月にサイトの全面リニューアルを行った。初めて日本棋院サイトを訪れた方にも分かりやすい情報提供を行うため、メニュー構成等の全面的な見直しを実施し、スマートフォンなどでの閲覧にも最適化された画面を提供できるようになった。サイト内では最新囲碁ニュース（棋戦結果速報）やイベント情報、棋士プロフィールなどの囲碁情報をはじめ、これから囲碁を始めたい方のための簡単入門ページや日本棋院として取り組んでいる囲碁ナショナルチーム「G O ・ 碁・ジャパン」、学校囲碁普及事業などの情報、以前からある英文

ページに加え、簡体中国語、繁体中国語、韓国語での情報提供を行い、世界への情報発信、囲碁普及に努めていく。また、事業計画、報告や定款など公益法人として必要な情報公開を行っている。

② 「幽玄の間」

ネット対局「幽玄の間」では、対局の他に棋戦中継等の情報提供を行う。平成28年度は、前年度に行った情報会員とのコンテンツ連携や、家族・学生向けの料金設定を引き続きアピールしサービスの向上に努める。また、入門・初心者向けのコンテンツ「囲碁アイランド」を、これから囲碁を始めようとする方にもアプローチを行い、囲碁の魅力をアピールする。前年より10クラスに拡大したアマチュア竜星戦スカパー！大会を始め、各種囲碁大会を開催し会員の満足度向上を図る。

- ・棋戦や主要なアマ大会の手順中継を行い、トップ棋戦の棋譜を配信
- ・ネット対局「幽玄の間」で中継された棋譜のアーカイブ提供
- ・同好会機能による囲碁ファン同士の交流

③ 情報会員

情報会員には最新棋譜から過去の名局まで、40年以上に亘る、約4万局の棋譜データを提供している。平成28年度は、26年度に行った「幽玄の間」サービスとの料金面での連携をさらに深め、サービスをアピールしていく。また、コンテンツの内容を見直しサービス向上に努める。

④ 電子書籍アプリ

週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来、単行本等を電子書籍「e碁BOOKS」、「i碁BOOKS」として配信する。

9 囲碁殿堂資料館

平成16年11月15日に開設し、囲碁殿堂入りの方々を顕彰するとともに、囲碁の歴史、囲碁文化についても広く一般に紹介する。また、関連図書、由緒ある囲碁用品展示、歴史に残る名棋譜の展示を行う。

10 各拠点での活動

日本棋院の各拠点においては、地域性を活かしながら東京本院と一体になって、本年度の事業計画を策定し、積極的に活動推進する。

10-1 有楽町囲碁センター

① 有楽町の東京交通会館「有楽町囲碁センター」は、年末年始以外は年中無休で、ファンの方々に対局場のほか段級位認定大会、棋士による指導碁、盤石や囲碁用品、書籍の販売、級位者から有段者までの囲碁学校等のサービスを提供している。

② 「有楽町囲碁センター」は、商業地に立地する地の利の良さ等により入場者数

が増加している。引き続き、日本棋院の新しい拠点として、利用者に満足かつ愛される囲碁センターを目指し、サービスの向上に努める。

10-2 関西総本部

大阪市北区に拠点を置く関西総本部は、近畿六府県(大阪、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山)と広島、岡山両県を統轄する。平成27年12月に新たにオープンした会員制の「茶屋町囲碁サロン」を普及拠点に加え、「梅田囲碁サロン」とともに運営する。

- (1) 各種大会の開催及び後援 (主なイベントは以下の通り)
 - ・夏休み子ども囲碁フェスティバル
 - ・広島フラー囲碁まつり (新規)
 - ・歳末たすけあいチャリティ囲碁まつり
 - ・比叡山こども囲碁合宿
 - ・阪急納涼囲碁まつり in 大阪
 - ・定例段級位認定大会(年5回)
 - ・級位者大会 (年6回)
- (2) 会館事業の充実 (梅田囲碁サロン、茶屋町囲碁サロン)
 - ・「梅田囲碁サロン」は大阪中心の梅田ターミナルに程近く、立地条件に恵まれ、入場者数は年々微増であるが増えている。年末年始以外、年中無休で営業し、利用者が望む快適な環境改善やサービスを充実させ、さらなる集客を目指し普及に努める。対局ホールでは一般対局のほか棋士指導碁、級位者の日そして有段者の集いを開催する。貸室は囲碁学校、入門教室をはじめ法人各種団体への貸席等の勧誘を行い一層の利用促進に努める。また、販売コーナーでは盤石、囲碁用品そして書籍の品揃えを充実させ利用者の希望に応える。
 - ・「茶屋町囲碁サロン」は《落ち着いた空間でゆっくりと囲碁を楽しんで頂く》をコンセプトとして昨年末に大阪茶屋町にオープンした。当サロンは会員制として運営を行い、個人会員、法人会員を設け新たな顧客ニーズに対応した普及を行う。
- (3) 大学での囲碁講座開設への取組み
- 平成27年度は関西圏の大学3校で囲碁講座が取り入れられた。引き続き各大学に講座開設の働き掛けを積極的に行い若者層への普及拡大を行う。
- (4) 小中学校への囲碁普及活動の充実
- 市町村の行政及び教育委員会の理解を得ながら、関西の公立小学校の総合学習の時間やクラブ活動に囲碁授業を導入して頂けるよう努める。すでに小学校等で行われている囲碁教室への協力や地域の普及指導員への支援等、関西のこども達への普及をより一層拡大するように努める。
- (5) 当本部管轄の遠隔地域への囲碁普及

関西圏都市部以外の遠隔地域の囲碁普及として、各地域の支部や囲碁団体の協力を得て実施している囲碁大会をさらに拡大し、前年度8地区より1地区増の9地区での開催を目指す。また、この大会により地域との連携を強化し、さらには個人・支部会員等の維持拡大及び支部活動の充実を図り普及に努める。

10-3 中部総本部

名古屋に拠点を置く中部総本部は、中部七県（愛知・岐阜・三重・福井・石川・富山・静岡県天竜川以西）を統轄する。

(1) 各種大会の主催等（主なイベントは以下の通り）

- ・囲碁ゼミナール
- ・東海地区朝日アマ団体十傑戦
- ・ジャンボ団体戦
- ・中部こども級位者大会
- ・会員と棋士囲碁のつどい
- ・愛知県・江蘇省青少年囲碁交流
- ・早春囲碁の集い

(2) 中部総本部の棋戦等の実施（新聞掲載）

中日新聞社主催「第57期王冠戦」（中部総本部棋戦）

(3) 指導碁・囲碁学校・イベント

- ① 指導碁は、平日1名、土・日曜日は1～2名の棋士を配し、充実を図る。
- ② 院内イベントの充実を図る。
 - ・「10 アンダーの日」
 - ・「級位者との日」、「有段者との日」
 - ・「Happy 級位者との日」、「Happy 有段者との日」
- ③ 入門から初級までの一貫したステップアップ講座、講習会、全12コースの内3コースに午前の部を開講し、女性及び高齢の方々の囲碁ファンより好評を得ている。

(4) 普及活動

- ・中部地区の囲碁愛好家からの寄付により、中部青少年普及囲碁基金を活用し、中部地区の高校生を中心とした青少年の囲碁普及活動の推進に努める。
- ・PTA及び地域ボランティアの協力を得て、小学校の放課後授業への導入を進める。また、中部地区の大学囲碁授業導入に向け積極的に働きかけ、広く囲碁の普及に努める。
- ・北陸地区の囲碁ファンの拡大のために、各県支部連合会の協力の下、囲碁ファン参加イベントを開催し会員の拡大を図る。

II 収益事業

1 免状発行および普及指導員認定事業（収益事業1）

(1) 免状発行

段級位認定大会、紙上認定等で認定された段級位に基づき、免状を発行する。

免状は、棋力の証明となるのもので、棋力向上の励みとなるよう9級から八段までの免状を発行する。免状には、審査役である棋士の署名がなされる。

(2) 普及指導員認定事業

囲碁愛好者の拡大と入門・初級者への指導者資格認定として、初段以上の免状保持者に囲碁普及指導員申請の権利を、六段以上の高段位免状保有者には、県師範、公認審判員を申請する権利を付与する。公認審判員の認証には、公認審判員講習の受講と書類審査を行う。

2 不動産賃貸事業（収益事業2）

東京本院では地下1F部分を、中部総本部では1F、4F～6F部分を他法人に賃貸する。

3 販売品、書籍事業（収益事業3）

(1) 販売事業

東京本院、有楽町囲碁センター、関西総本部、中部総本部の各拠点に売店を設け、碁盤、碁石、碁笥などの対局用具、各種囲碁用品、囲碁書籍の販売を行う。また、全国各地でも購入できるよう、通信販売やインターネットを利用してのオンラインショップでの物品販売も実施する。

(2) 書籍製作販売

入門から高段者に向けた棋力向上の講座、問題集等の単行本を発行予定。また、昨年から順次発行している入門初級者用G O・碁・ドリルの続編を発行予定。そのほか既刊本を日本棋院各拠点の売店、全国の書店で販売する。

(3) 電子書籍

日本棋院が発行した各種紙誌（週刊碁、月刊碁ワールド、囲碁未来）及び単行本を電子書籍「e 碁BOOKS」、「i 碁BOOKS」で配信する。そのほか、囲碁アプリ「詰碁マスター」、「黒猫のヨンロ」等のiOS向けアプリで詰碁等問題を配信する。

III 管理部門

1 受取寄付金

受取寄付金に関して、公益財団法人移行による税制上の優遇制度の理解促進に努め、受取寄付金の維持・拡大を図る。

(1) 「G O・碁・ジャパン」応援募金の継続

ナショナルチームのメンバーを再編成するとともに、ナショナルチーム応援募金による更なるチーム強化等を図り、「世界で勝てる日本の棋士」の育成を図り、海外棋戦における成績向上を目指す。

(2) 「がっこう囲碁普及基金」の継続と拡大

幼稚園・保育園から小・中・高校、大学への囲碁授業・講座（正課・非正課授業等）の促進に活動支援を目的とした基金を平成27年4月より募金の受付を開始。いっそうの拡大を図る。

(3) 法人賛助会員の維持・拡大

(4) 上記以外の特定寄付金（岩本海外普及基金等）、一般寄付金

2 コンプライアンス

公益法人として、コンプライアンス行動規範に則り、定款による執行体制、定款及び諸規程に沿った活動に努めるとともに、透明性の向上やガバナンスの確立に注力する。

内部統制の強化については、「内部統制委員会」を中心に監査の実施及び改善取組みを施しており、平成28年度においても、継続的に取組み強化を図る。

3 「囲碁大使」の拡充

日本棋院創立90周年事業の一環として新設した、財界や著名人の方々に委嘱する「囲碁大使」を更に拡充し、囲碁の魅力の発信等を通し、囲碁ファンの拡大に努める。

4 「100周年ビジョン」に向けて

囲碁人口の減少、世界でなかなか勝てない日本棋士、そして財務基盤の劣化。この現状を鑑みて、日本棋院創設90周年にあたる一昨年、10年後の100周年に向けたビジョンをどう描くかという構想のもと、「100周年プロジェクト」が開始されました。同プロジェクトは、「厳しい現実」を直視して、大胆かつ抜本的な改革を進めないと、囲碁界の未来がない。

その強い危機感をもとに、以下の10の行動を提言しました。

〈100周年の姿〉囲碁人口 500万人！学校、企業、家庭で老若男女が囲碁を楽しむ。

行動-1 囲碁普及～囲碁人口増大を

- (1) 教育への導入
 - ① 幼稚園、小学校授業（放課後含む）の拡大
 - ② 中学校・高校・大学の囲碁部の創設支援
 - ③ 大学への囲碁講座の拡大
- (2) 社会人（20～40代）と女性・高齢者への普及
 - ① 企業内囲碁部の普及拡大
 - ② 社会人の囲碁サークルを奨励
 - ③ 女性を増やす。（囲碁ガールズの拡大など）
 - ④ 墓会所等、他の囲碁団体と連携強化を通して高齢者ファンの増大
- (3) 草の根囲碁普及活動の支援
 - ① 囲碁の裾野拡大に向け、初心者対象指導法と級位認定の統一（例）入門者・初心者向けコンピューターソフトによる客観的棋力認定コンピュータ対戦によるスーパー15級
 - ② 囲碁カフェ、朝囲碁ボランティア活動支援
 - ③ 普及指導員・学校指導員制度の改革・活性化＝パートナーシップ型

〈100周年の姿〉世界トップ10に2人、トップ20に4人、トップ50に10人

行動-2 世界で勝てる棋士を数多く育成する

- (1) 院生制度改革
 - ・院生制度の門戸を拡大し、倍増させる。（院生の下部組織創設（アマ大会参加も可能））
 - ・ネットを活用した院生養成部を創設、日本全国から才能ある人材を集める。
- (2) 棋士の登用
 - ・棋士への登用年齢を段階的に下げ、棋士採用時に社会人としてのマナーなどの人格面での研修も実施する。
- (3) 若手棋士の育成
 - ・G O・碁・ジャパン活動の強化
 - ・U20の総監督を設け、若手の育成を徹底強化する。毎日朝9時から5時まで碁の勉強を集団で行う制度を導入する。（中国棋院制度を日本にも導入）
 - ・中国・韓国で武者修行する機会をつくる。
- (4) ランキング制度の導入
 - ・明確な目標をもって戦うプロ集団としての意識を高めるために日本・世界ランディング制度の導入を検討する。

〈100周年の姿〉日本棋院会員を10万人以上！！

行動-3 大胆かつ抜本的な改革を実施し、財務基盤の確立を

- (1) インターネットの普及や経済・社会の変化に即応、意思決定の迅速化を図るため執行部へ積極的に外部人材を登用、執行体制の見直し・構築を行う。
- (2) 棋士の報酬制度を従来以上に囲碁普及への貢献を重視する棋士の報酬制度の在り方を検討するプロジェクトを立ち上げる。
- (3) 職員の人事制度も、収支改善に向け経営環境の変化に対応したインセンティブの働く制度の導入を図る。
- (4) 財務基盤強化は、以下を中心とする。
 - ① ネット「幽玄の間」を中心にして、小口販売を強化して、ロングテールでの収入増へ。また、クラウドファンディングを有効活用する。
 - ② 会員制度の改革：個人会員、ネット会員を見直し共通の日本棋院会員（仮称）を創設する。
大会への参加や、日本棋院、総本部、本部支部の割安使用、ネット・出版の割安購入、自戦解説付き棋譜提供等による会員メリット向上

〈100周年の姿〉地域対抗、実業団が加わり、囲碁コングレスがある。

行動-4 地域対抗・実業団棋戦と囲碁コングレスの創設

- (1) 地域対抗プロ（アマ）棋戦の創設
地域ブロックから当初8チーム（東京のみ2チーム）を組成し、地域スポンサーと連携して、地域対抗のGリーグ（仮称）を創設する。
例) 仙台タナバタ vs 福岡ヤマガサ
- (2) 実業団対抗戦の創設
- (3) ジャパン碁コングレス開催
(2020 東京オリンピック・パラリンピック（以下東京五輪）に向けて）
世界アマ囲碁大会・囲碁サミット・女流都市対抗やタイトル戦を絡めて、同時に年一回の碁コングレスを開催する。
- (4) タイトル戦をファンがより楽しめるよう土・日の開催を増やす。
- (5) 遠隔地の方との対局の際には、ネット対局を拡大する。
(地域ブロック対抗戦や国際棋戦にも有用)

〈100周年の姿〉ネット会員10万人以上、入門から高段者、子どもからお年寄りまで幅広い層が利用している。

行動-5 ネット戦略を描き、幅広い層へアピール

- (1) ネット戦略を構築するプロジェクトチームを組成して、抜本的にあり方を検討する。
- (2) 「幽玄の間」のサービス拡充
情報会員とのサービス相互乗り入れ、決済機能の強化、会員種別の多様化（年払

い会員、限定利用会員) など

(3) 入門・初級者戦略

スマートフォンを中心とした、自社開発コンテンツの提供や既存アプリとの連携による、入門・初級者の取り込み

(4) ホームページの活用

- ・公式ページでの全国各地の大会・イベント情報発信とWEBでの大会エントリー受付
- ・ファンと棋士との交流広場

〈100周年の姿〉囲碁の棋戦結果などが、常にニュースになる。
ニコ動等の中継は常に10万人以上が視聴している。

行動-6 メディア戦略～囲碁の知名度を徹底的に上げる。

(1) 日本棋院内に専任のメディア戦略・広報チームを組成する。

(2) 既存メディア（テレビ・新聞・雑誌）との関係強化

対局放映の増加、随時プレスリリースを配信するなどして、常にニュースネタを提供して話題をつくる。

(3) 新規メディアの開拓

- ①ツイッター、フェイスブック等のソーシャルメディアの徹底活用
- ②ニコ動、ユーチューブ等動画の活用

(4) まんが、アニメ、ゲームによる囲碁の認知度を高める。

〈100周年の姿〉東京五輪で囲碁フェスティバルが開催され、ジャパン碁コングレスがレガシーとして存続し、世界のGOの中心として日本が輝いている。

行動-7 国際戦略～世界のGOの中心として日本が輝く

(1) 東京五輪に合わせた囲碁の世界発信と2016年のスポーツ文化ダボスの活用（文科省が主催するスポーツと文化の祭典）

(2) シアトル、サンパウロ、アムステルダム碁センターを拠点とした、またINAF（岩本北米基金）を活用した日本囲碁の世界普及拡大

(3) 「日本大使杯囲碁大会」の拡大

(4) コンテンツを積極的に英語化して、日本発囲碁コンテンツを世界展開する。

〈100周年の姿〉囲碁が子供、経営者、シニアにとって有効であることが社会の常識になっている。

行動-8 囲碁の研究を深め、データの蓄積～人工知能・科学との融合

(1) 棋士の育成手法に関するリサーチを強化して、人口知能等を組み合わせた、指導法を確立する。

(2) 教育、医療、家族・地域の絆など、囲碁の多面的な魅力と効用を主に子供、成人、シニアに分けて研究し、海外研究機関とも連携・アピールする。

- ① 子供にとって囲碁の情操面・頭脳面での効能
 - ・川島先生の研究などを広げる。囲碁の効能・認識力、創造力、コミュニケーション力、記憶力、集中力により、感情の抑制、いじめの防止
 - ・囲碁と学業成績の相関関係の実証調査と周知
- ② 大学における囲碁講座、囲碁のビジネス書発刊を通して、囲碁のもたらす戦略的発想などビジネスへの活用分析を深める。
- ③ シニア向けの研究を強化する。
紛争作り、アルツハイマー研究、認知症など

〈100周年の姿〉地域定住棋士と地域拠点が連携し地域を盛り上げている。

行動-9 地方の普及盛り上げと地域の活性化

(1) 日本棋院の地域普及の柱

インターネット対局拡大等により地域定住棋士制度を創設して、地域普及の核とともに、県本部・県連と連携して普及を図っていく。

独立採算が可能なブロック制もあわせて、検討する。

(2) 本部・県連・支部の活性化と普及

普及に積極的に取り組んでいる、或いはこれから活性化を図る県本部・県連と連携し、普及強化（棋士派遣等）のテコ入れを行い、支部組織の活性化を図る。

また、囲碁愛好家の底辺拡大のために創設した「入門・初心者」会員の充実を図り囲碁人口の増加を目指すとともに、支部会員を拡大、支部の活性化に繋げる。

(3) 重点的取り組み都市を指定して、「囲碁祭り」のような自治体との協力取り付けの目標値を設定する。

囲碁サミット加盟市町村並びに県本部等を中心とした地方自治体との強化体制を構築し、地域の囲碁活性化をはかる。

〈100周年の姿〉ファンの声を尊重し、棋士、職員、囲碁関係者が一緒になって囲碁界を盛り上げている。

行動-10 囲碁ファンの声を尊重し、100周年に向け発展を！

（参考例）「ビジョン」策定にあたり寄せられたファンの声

- (1) 9路盤、13路盤をスマホ等を通して広く普及させる。9路盤と13路盤の棋士対局も増やす。スマホで学べる囲碁アプリも拡充する。
- (2) 囲碁と将棋とオセロによる三種競技である「トライボーディアン選手権」が開始され、将棋やオセロのユーザーにも囲碁が親しまれている。
- (3) ファンに親しみやすい囲碁をモチーフとしたキャラクターを採用し、ホームページ、雑誌、新聞等の各種媒体で活用する。（ゆるキャラ部門、ガチキャラ部門、囲碁少女部門、4コマ部門など）